

24年度事業報告

2024年4月1日より2025年3月31日までの事業概略をご報告します。

当協会の概況

2024年度も、当協会の主な事業である育英事業、展覧会事業、パブリックアート普及事業、国際交流事業などを推進して参りました。パブリックアート普及事業においては、京急空港線の羽田空港第3ターミナル駅に陶板レリーフ作品を設置するなど計3作品を設置しました。これにより本事業がスタートした1972年からこの53年間に、全国に設置したパブリックアートは計561作品となりました。

昨年度の活動内容についてご報告いたします。

I. 公益事業

1. 育英事業

(1) 瀧富士基金

日本の将来を担う若者を育てるための「瀧富士基金」は第58期奨学生を募集しました。8月27日の選考委員会での厳正な審査の結果、40人の奨学生が新たに決まりました。また奨学生のうち特に成績優秀な学生の中から、奨学金の全額、または一部の返還を免除する給費生10人を選びました。このほか奨学金を増額する特待生として10人を選びました。基金創設以来の受給者は2056人となり、給・貸与総額は24.7億円となりました。

(2) 国際瀧富士美術賞

若手アーティストの育成を支援する「国際瀧富士美術賞」は第45期生の募集を行い、第一次審査を7月17日に、本審査会を9月25日に実施しました。厳正な審査の結果、国内13美大15人、海外6カ国8美大8人の計23人の受賞者を選びました。国内最優秀者のグランプリには東京藝術大学の吾妻怜さん、海外最優秀者の国際グランプリにはドイツのシュトゥットガルト公立美術アカデミーのイリス・ダイベルトさんが受賞しました。授賞式および懇親会を11月19日に明治記念館で行い、国内外の受賞者を囲んで指導教員、審査員、協会関係者で受賞を称え、交流を図りました。

2. 展覧会事業

(1) 交通総合文化展

例年JR上野駅で開催していましたが、同駅の工事に伴い全国公募した写真（新日本観光写真）と俳句の優秀作品を、協会ウェブサイトと特設ウェブギャラリーで公開しました。また2024年10月13、14日、お台場で開かれた「鉄道フェスティバル」で上位優秀作品を展示

しました。このほか同 10 月 16 日の「鉄道の日」祝賀会では協会が駅に設置してきたパブリックアートを動画で紹介しました。

(2) 「原宿ファッションジョイボード文化展」

JR 原宿駅の大型看板 12 面を使った「原宿ファッションジョイボード文化展」では、「IT を守る、育てる、“頼れる IT 社会” の実現を目指して」キャンペーンを前年度に引き続き開催しました。

3. パブリックアート普及・振興事業

(1) パブリックアートの設置

2024 年度は一般財団法人日本宝くじ協会の社会貢献広報事業の助成を受けた作品は 1 カ所、またこれ以外に 2 作品にかかわりました。1972 年からのブリックアート制作・設置数は、2025 年 3 月末で 561 作品となりました。

宝くじ協会の助成を受けた作品は以下です

陶板レリーフ「太陽と羽ばたく港まち」

設置場所：名古屋臨海高速鉄道 あおなみ線 金城ふ頭駅

原画：画家の故天津恵氏の作品を「クレアーレ熱海ゆがわら工房」が再構成

公開日：2025 年 3 月 26 日

その他の作品は以下です。

ステンドグラス「THE FOUNTAIN BOY」

設置場所：JR 西日本 大阪駅上 イノゲート大阪 1 階

原画・監修：荒木飛呂彦

公開日：2024 年 7 月 31 日

陶板レリーフ「煌めく希望、KEIKYU」

設置場所：京急空港線 羽田空港第 3 ターミナル駅

原画・監修：絹谷幸二

公開日：2024 年 10 月 3 日

(2) パブリックアート普及のための PR・広報活動

台東区社会教育センターが 12 月 11 日に開催した公開講座「たいとう再発見スタンプラリー まちなかアート散歩」では、同センターの依頼で協会スタッフが上野駅構内・周辺の協

会が設置したパブリックアートやアートスポットを解説。参加者アンケートで「普段気が付かなかったアートに出会えてよかった」など、全員が満足しているとの回答を得ました。

4. 日本の文化芸術の普及振興を兼ねた国際交流促進事業

(1) 若手芸術家の育英事業である「国際瀧富士美術賞」の授賞式・懇親会（11月19日実施）に、国内外の受賞学生、指導教員、審査員、協会関係者らを招待し、交流を図りました。授賞式前日には「クレアーレ熱海ゆがわら工房」を国内外の学生、指導教員が訪問し交流しました。学生たちにはステンドグラスと陶板を使ったワークショップも行い、制作した作品を授賞式の懇親会場で展示しました。

(2) 日本の陶板技術を学びたいというモロッコ系フランス人の若手ステンドグラス作家、サラ・ウアドゥさんが来訪し工房を見学。工房リーダーの中野竜志さんと製作技術について意見交換しました。

Ⅱ. 収益事業

1. 環境芸術にかかわる各種コンサルティング事業

公共スペースに設置する陶板レリーフ、ステンドグラス、あるいは立体作品などのパブリックアート作品の制作について、各種のコンサルティングを行い、収入を得ました。

2. 不動産などの賃貸業

当協会が保有している不動産や、工房等（クレアーレ熱海ゆがわら工房、信楽工房等）の施設を企業に賃貸し、収入を得ました。

以上